

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ						
科目担当者	萩原 駿史 HAGIHARA Toshifumi						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>専門演習Ⅱでは、行動経済学の実社会への応用を解説した文献を読むことから始めます。その後、これまでの行動経済学についての研究を踏まえて、各班で行動経済学を現実の社会問題に適用して考察することがテーマになります。</p> <p>演習では、これまでと同様に、三つの班に分かれてもらい、それぞれの班が、報告、質問、司会・評価の役割をローテーションで担当する形で行います。</p>						
授業の到達目標	<p>① 行動経済学の実社会への応用事例を研究し、それを基にして現実の社会問題を行動経済学の観点から論じることができるようになること。</p> <p>② ゼミ生どうしの議論を通じて、各人が経済行動の見方を確立し、集団における主体性と積極性及び協調性が発揮できるようになること。</p>						
授業計画・内容	1	ゼミについての解説	16	後期方針の確認			
	2	バイアスと誤謬：打ち合せ	17	臓器提供へのナッジ：打ち合せ			
	3	バイアスと誤謬：報告・討論	18	臓器提供へのナッジ：報告・討論			
	4	ナッジの役割：打ち合せ	19	環境問題へのナッジ：打ち合せ			
	5	ナッジの役割：報告・討論	20	環境問題へのナッジ：報告・討論			
	6	ナッジを使うべきタイミング：打ち合せ	21	ナッジの問題点：打ち合せ			
	7	ナッジを使うべきタイミング：報告・討論	22	ナッジの問題点：報告・討論			
	8	中間討論	23	テキスト内容の再確認			
	9	選択アーキテクチャー：打ち合せ	24	第1班 社会問題へのナッジ：打ち合せ			
	10	選択アーキテクチャー：報告・討論	25	第1班 社会問題へのナッジ：報告・討論			
	11	老後資金に関するナッジ：打ち合せ	26	第2班 社会問題へのナッジ：打ち合わせ			
	12	老後資金に関するナッジ（：報告・討論	27	第2班 社会問題へのナッジ：報告・討論			
	13	保険に関するナッジ：打ち合せ	28	第3班 社会問題へのナッジ：打ち合わせ			
	14	保険に関するナッジ：報告・討論	29	第3班 社会問題へのナッジ：報告・討論			
	15	前期総括の討論	30	総括的議論			
授業外学修 (事前学修)	報告班はレジュメ作成や報告の仕方について十分な打ち合わせと準備が必要です。また、演習の質を高めるのは十分な準備を経た質問にあります。(2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	討論後は、各自が現実の経済現象での事例を討論内容に即して考察する形での復習が求められます。(2時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法			評価比率	到達目標との対応		
	授業への参加姿勢			50%	①, ②		
	報告班での担当課題の成果			20%	①, ②		
	質問、司会・評価班での議論への貢献 レポート			20% 10%	①, ② ①		
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	リチャード・セイラー, キャス・サスティーン『NUDGE 実践 行動経済学 完全版』(日経 BP 社, 2022)						
参考文献	ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー—あなたの意思決定はどのように決まるか—』(早川書房, 2012) 室岡健志『行動経済学』(日本評論社, 2023)						
その他	演習ですから、何よりも参加することが重要で、無断欠席は厳禁です。また、班のメンバーに迷惑がかかるようなことのないようにしてください。						